

ゲリット
G R I T (やり抜く力) II

3 学期の始業式を迎えました。平成 29 年、新しい年の始まりです。月並みですが、「一年の計は元旦にあり」です。しかし、一方では、平成 28 年度末、3 月 31 日に向かう始まりでもあります。これも月並みですが、「終わり良ければすべて良し」ということです。平成 28 年の 4 月から 12 月までの 9 ヶ月間でためてしまったツケをしっかりと清算し、良い形でもう一つの元旦 (4 月 1 日) を迎えられるように、まずは 3 ヶ月間、しっかりと取り組んでください。

さて、「一年の計は元旦にあり」について、月並みではないお話を書きます。「一年の計画は年の初めである元旦に立てるべきであり、物事を始めるにあたっては、最初にきちんとした計画を立てるのが大切だ」ということですが、「言うは易く行うは難し (何をやるにしても、口で言うのは簡単だがそれを実行するのは大変難しい)」で、毎年、毎年、計画倒れの繰り返し、もはや計画さえも立てなくなったという方も多いのではないかと思います。

「一年の計」を元旦に立て、その計画に基づいて実行し、必要に応じて計画を修正しながらも、ついには目標を達成する力。これが、第 3 号から引き続きのテーマ、「G R I T (やり抜く力)」なわけですね。課題を意図的に洗い出し、課題を克服するために必要な意図的な方法を選択し、それを実行する力。それが G R I T です。

G R I T は伸び続けます。しかし、G R I T の向上は、粘り強く実行し続けた時間に比例しますので、短期間で劇的に G R I T が向上するということはありません。

で、いつものように G R I T の低い私はどうしたかと言うと、「目標 (なりたい自分) を持って一歩踏み出す」。その一歩が目標に近づいているかどうかは自覚できない。しかし、目標 (なりたい自分) があって、一歩踏み出せば、それは必ず目標に向かっていきます。それは、私の経験から断言できます。そうやって、多少なりとも、私は、私自身の G R I T を意図せず、向上させたのだと思っています。(そこから、私は、「とにかく何かを始めよう」と言い続けているのです。)

皆さんは、いずれ世に出ます。実社会では目標を立てることと目標を達成することが必ず求められます。そのとき、適切な目標が設定できるように、適切な計画を立てられるように、計画を確実に実行し目標を達成できるように、まずはそれぞれの一歩を踏み出しましょう。「私のようなやり方」から非常にきつい「意図的な方法」まで、現時点での自分に合ったそれぞれの方法を選択し、目標に向かって行ってほしいと思います。

次に前号（第3号）の補足です。

【～人並み以下の部分を人並みにすればいいわけですが、それが私にはできなかった。GRITが低いので。その代わりに人並みの部分を無意識のうちに伸ばし続けて、人並み以上にした。～これが意図的にできるようになると、私のように「短所カバーの必要性に迫られて、無意識のうちに長所を伸ばす」ということではなく、短所そのものを克服し、長所に変えてしまいます。】と書きました。

これは、「長所を伸ばす」のが「無意識」で、「短所そのものを克服し、長所に変え」るのが「意図的」と言いたいものではありません。と言っても、後者は、間違いなく「意図的」です。こんなことが無意識にできるはずがありません。しかし、前者の「無意識」は「私の場合は」ということで、「意図的」に行えば、もっともっと長所を伸ばすことができたということです。そのように読んでください。

次に読書について。【読書を通してGRITそのものを鍛えることはできても、個別の課題を克服するための意図的な方法として、読書は優れた方法とは言えません。（これは、読書の素晴らしさを否定するものではありません。読書は、GRITや課題克服とは無関係に素晴らしい力を読む者に与えてくれます。）】と書き、続けて受験勉強の不安から逃げるために「参考書を読書し続けた」私のお話を書きました。紙幅の関係で、読書の素晴らしさについては言及できませんでしたので、今回は読書の素晴らしさについて書いておきます。

一流と呼ばれる人たちは、ほぼ例外なく「読書家」です。（なので、ここでも「積読（ツンドク／積んで置く）」「斜め読み」の私は一流ではないということになりますが、「出藍の誉れ」です。皆さんには、一流を求めます。）

読書の素晴らしさは、獲得される知識量、磨かれる感性も然ることながら、GRITを向上させてくれることにあります。読書家は勉強好きです。読書を通して、知的好奇心が向上し、知的興奮・知的充足感を体験することで勉強好きになります。私の読書は必要に迫られた「斜め読み」ですが、皆さんは「読破」してください。何を読むかではなく、「読破」することが大切です。読破して、読破して、GRITを向上させ、知的興奮・知的充足感を体験し、「読書家」に、つまりは「勉強家」になってください。勉強家であること、これは先行き不透明な不確かな世界を生き抜くための「確かな能力」です。（だから、本校は「課題を発見し解決するために必要な『自ら主体的に**学び続ける力**』」の育成を目標にしているのです。そのための視点が、「アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）」です。）皆さん、アクティブに読書してください。

もう一つ、皆さんにお勧めするのは「書くこと」です。文章が書けないと、どんな方面に進もうとも、世に出て、力を発揮できません。発揮できないというよりも、「わかるように書けない」ということは、わかってないんだな」ということにしかならないということです。「書く」ためには、「知識」を活用して、「思考・判断」します。「書く」ことで、「思考・判断」が深まり、「知識」が定着します。そして、「書くこと」でGRITは向上します。（「書くこと」、これだけは多少なりとも、私はやっている。こうして今も書いている。）

さあ、皆さん、やり抜いて、やり抜いて、「やり抜く力（GRIT）」を鍛えてください。そして、幸せになってください。

（受験生の皆さん。まずは、意図的に受験をやり抜いてください。現役生は、試験最終日まで伸び続けます。意図的に学習してください。）